

「待つ時、動く時」
(ルツ記2章 23 節～3章 18 節)

牧師：原 雅幸

序) 親切が花開いた物語～ルツ記～

・三人は「備えて待ち」動いた結果、親切が花開き、希望の実を結んだ。

1) ナオミ～待って未来を切り開く～

- ・古代～数十年前まで、結婚は仲立ちによって行われてきた。
 - ・ルツの落穂拾い初日から、ナオミにはルツとボアズの結婚が神の摂理と導きによる可能性を見て取っていたが、少なくとも1ヶ月待った。
 - ・ナオミはこの「待つ時」にルツ、ボアズそれぞれを吟味した。
- 年長者の役割の大切さ：心密かに祈って待ち、情報を集めて吟味する。
時をつかんだなら、若い者たち以上の大胆さで動き、未来を開く。

2) ボアズ～人生の待ち時間を肥やしに～

- ・ルツへの思いは、一目惚れ(2章参照)?!しかし一時の恋心では動かない。
- ・なぜボアズは未婚だったのか。カナン人ラハブの子であることが影響?
- ・ボアズは待つ間に、ルツの評判を調べ、自分の親戚としての順位を調べていた。そして彼は出来事の背後にある主の計画に思いを向けていた。
- ・ルツと結婚することにはリスクがあった。しかしそのリスクを引き受ける覚悟を一晚で固めた。「主との交わり」が「決める時には決められる男」に彼を磨き上げた。



3) ルツ～自分の幸せを主に委ねて～

- ・1章 16～17 節の誓いが現実に問われた「待つ時」⇔外国人労働者の苦労。
- ・ルツは逃げようと思えば、ふるさとに戻れた。若い男性と再婚すれば、親戚の義理は消え、未来も開ける。ナオミを天に送るまで寄り添えば、もはや婚期はなくなる。けれども、ルツは覚悟を固めた。
- ・彼女はナオミの幸せを自分の責任として引き受けた。これが「先の誠実」にまさる「誠実」。



結) 神のなさることを待つ三人～待ち時間を無駄にしない生き方～

- ・ボアズは、順位1位の親戚の前にルツを手放し、既成事実を作らない。
- ・ナオミとルツも「このことがどう収まるかわかるまで待つ」スタンス。
- ・3人の親切と信仰が、想像もつかなかった未来へと彼らを導く。
- ・主の時は様々なレベルで必ず来る。そこまでどのように「待っていたか」が問われる。日々の信仰生活において「目を覚まして」待ちたい。

なまえ
名前(_____)

① 今日の聖書のお話に出てきた人を線で結びましょう。

- ルツ ・ ・ おじさん ・ ・ 外国人で、お母さんのお世話をした。
ナオミ ・ ・ おばあさん ・ ・ 一晚で、結婚することを決めた。
ボアズ ・ ・ おねえさん ・ ・ 娘の幸せのために大胆に行動した。

② ナオミは、待ち時間(ルツとボアズが出会ってから、大麦の収穫が終わるまで)に、何をしていたのがよかったのですか。③ ボアズは、待ち時間(結婚をとりもってくれる人が現れず、独身でいる間)に、何をしていたのがよかったのですか。④ ルツは、待ち時間(ベツレヘムに来てから、ナオミにボアズとの結婚を指示されるまで)に、何をしていたのがよかったのですか。⑤ 待たないで、急いで焦って行動すると、どんなことになるでしょうか。⑥ どうすると、待ち時間を無駄にしまうでしょうか。

- () 動く時がくるのは、ずっと先だと思っている。
() 自分の幸せより、誰かの幸せのことを考えて行動する。
() 出来事の背後に、どんな神様の計画があるかを考える。
() 毎日コツコツではなくて、たまにがんばれば良いと思っている。
() 神様は生きてもいないし、やさしくもないと信じている。

